

I 学校の概要

外国語教育推進モデル校事業

高松市立塩江中学校

◆生徒数及び教員数

○生徒数 31名

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全 校
学級 7名	学級 7名	学級 10名	学級 7名	学級 31名

○教員数 13名

◆学校の特徴

本校は、施設一体型の小中併設校である。過疎化が進み、児童生徒数は年々減少しているが、子どもたちは仲がよく、教職員にも親しみを持って接し、温かい雰囲気の中で学校教育活動が営まれている。子どもたちや学校に対する地域の期待は高く、地域の方は学校に協力的で、総合的な学習の時間等において、子どもたちは、塩江の良さを発信する経験を積んでいる。その成果により、昨年度の調査では、新1年生が、「塩江の良さを外国の方に発信したい」という願いを強く持っていることが分かった。

外国語の学習については、中学校に入学して、苦手意識を持つ生徒が増えることも懸念されるが、少人数であることや、小中連携をしやすいといった強みを生かすことにより、学力の向上を図りたい。

II 研究主題等

研究主題

小学校の学びを中学校で生かす英語科における指導方法の工夫

◆研究主題設定の理由

本校は、小中併設校であり、小学校と中学校の連携が取りやすく、小中連携への障壁が低い。昨年度は小中で連携してCAN-DO リストを作成したり、中学校教員が小学6年生の授業に関わったりと、協働の場面を設けた。

小学校では、音声によるコミュニケーションやICT機器の活用が活発に行われている。また、総合的な学習の時間には、塩江の良さを知り、その良さを発信する試みもなされている。そうした小学校での学びを生かすとともに、少人数ならではの個に寄り添う指導によって、子どもたちが英語を身近なものとしてとらえ、自身の成長を実感できる英語科の指導方法について研究していきたい。

◆研究内容及び方法

- 1 小中で連携できることの強みを生かした生徒の実態把握
- 2 生徒の実態に寄り添い、それぞれの個を生かす授業づくり
- 3 授業参観や交流授業を通じた気づきの共有
- 4 小学校での学びを生かした音声によるコミュニケーション活動
- 5 ICT機器を活用した発信の機会の創出

III 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

1 (生徒質問紙) 授業に、自分の目標(めあて・ねらい)をもって取り組んでいますか。

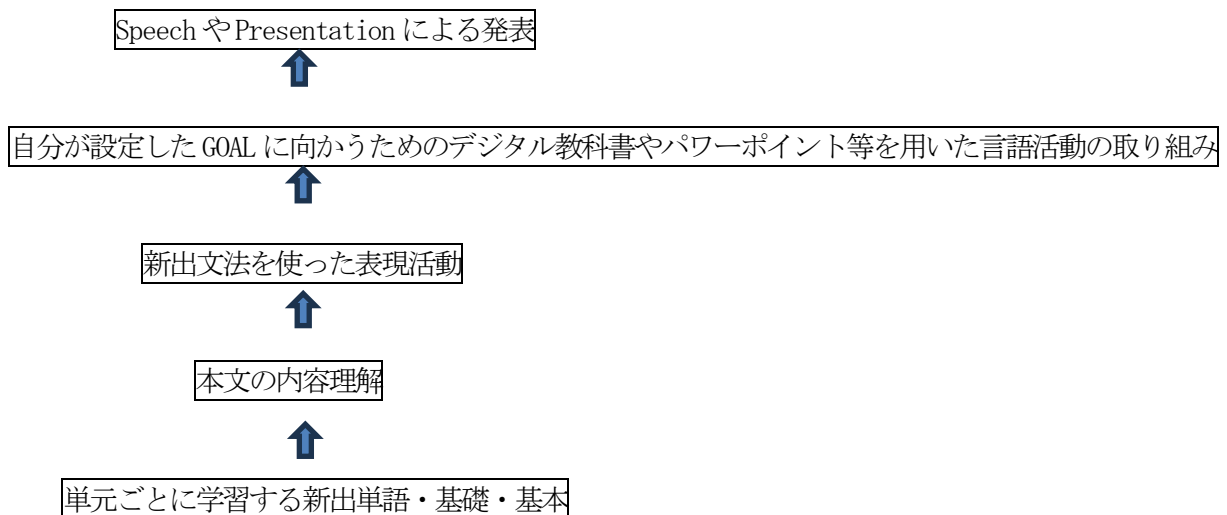
指標 「①よく分かる+②だいたい分かる」の合計



指標の達成に向けた実践

○单元ごとの課題設定の工夫

单元ごとに生徒が学習した内容を生かせる場面(GOAL)を設定し、各自で目標を決めて取り組んでいくという学習スタイルを継続した。生徒が主体的に、自己調節をしながら学習に取り組めるよう心がけた。



① 単元の最後に自己表現活動があることを確認 **各自で自分のGOALを設定**

例 塩江の魅力を外国人観光客に発信する(小学校の時に調べたことがあるホテルについて紹介したい。ホテルの魅力を伝えられるポスターを作ろう。)

② 授業の中で、基礎・基本の定着 **各自で自分の目標を設定**

・学習者用デジタル教科書を用い、音読練習(リピーティング、シャドウイング、ライティング)

例 デジタル教科書のマスク機能や再生速度調節機能を用いて本文を書き取ったり、自分で活用してみたい英単語や英文をワークシートにまとめたりする



自分で再生速度を
選択している



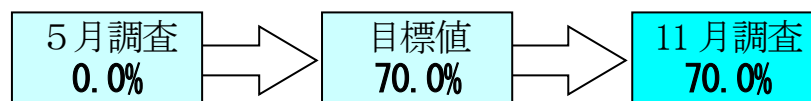
シャドウイング時にマスクの
かかった本文の書き取り



マスクのかかった単語の
つづりを確認している

2 (生徒質問紙) 英語の授業で学んだことを生活の場面で生かしたことがありますか。

指標 「①よく分かる+②だいたい分かる」の合計



指標の達成に向けた実践

○表現活動の工夫

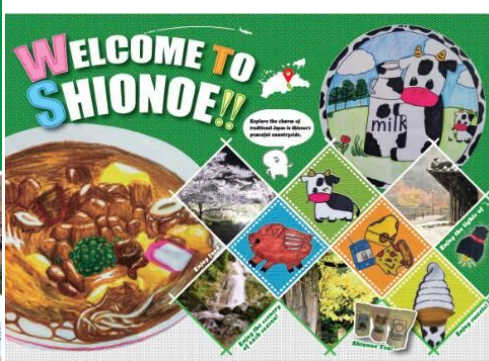
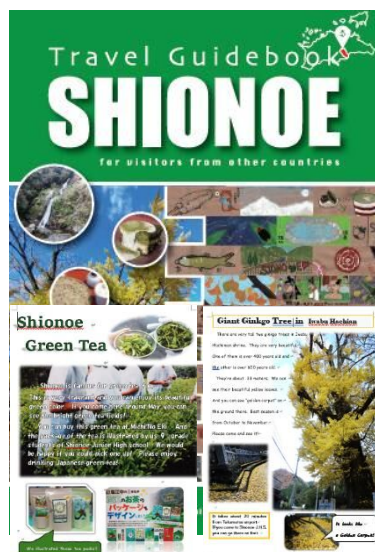
4 技能を生かした表現活動 (Speech, Presentation, ポスター作りなど)

- ・自分が住む町を紹介する活動において、紹介する内容や場所を自己決定させることで学習意欲につながっていった。生徒が発信したいことを発信させることを大切にしたい。それぞれの思いや考えをもとに、活発なやりとりができた。発表後に ALT からより詳しく質問をされたときも、積極的にコミュニケーションをとる姿が見られた。

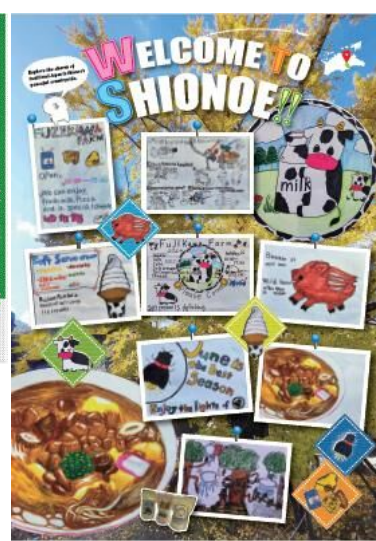


《パワーポイントを用いてプレゼンをしている様子》

- ・小学校から行っている「ふるさと学習」の学びを生かし、塩江の魅力外国人観光客に発信することを最終目標として、3年生はパンフレット、1年生はポスターを制作した。そして、「総合的な学習の時間」を使って「道の駅しおのえ」や「高松市塩江美術館」など塩江町内の各所へ配布して回った。この経験を通して、塩江の魅力を英語で伝えていく楽しさや英語力をさらに向上させていきたいという気持ちが生まれたようだ。これからも塩江の観光地や普段の生活の場で英語を使っていく機会を作っていけたらと思う。



塩江紹介ポスター
(校外掲示用)



塩江紹介パンフレットの表紙と
「お茶」や「イチョウの木」を紹介したページ

塩江紹介ポスター (校内掲示用)
1年生の描いたポスター8枚を1枚にまとめている

IV 研究の成果と課題

【成果】

生徒に寄り添う課題設定

本学級の生徒は自分の気持ちや考えを伝えあうことが好きである。英語は難しいと感じているものの英語でやり取りをしてみたい生徒が70パーセント近くいたことから、今回自分の町を英語で紹介するという課題を設定した。その際、全体のバランスや整合性を気にせず、生徒が紹介したいものを紹介させるようにしたことで、取組が意欲的になった。しかしながら、自ら発信することが苦手であったり、自分が使える英語が少ないと感じていたりした生徒が多いため、今回の実践ではテンプレートを用いながら、伝える内容を考えさせ、自信を持って発表できるように工夫をした。

ICTを活用した個別最適な学びや協働的な学び

〈個別最適な学び〉

今回の研究は、課題設定の大切さ、ICT活用における個別最適な学びや協働的な学び、振り返りの方法など授業の中で大切にしていけるべきことを考えることができ、意義のあるものだった。特に、個別最適な学びについては、デジタル教科書を用いて本文の復習をする際、各自で難易度を決めて取り組めるようにすることで、各自が自分のペースを大切にしながら、基礎・基本の定着を図ることができていると感じた。

〈協働的な学び〉

5月の時点で約70パーセントの生徒が英語の授業におけるペア活動やグループ活動を好きであると答え、生徒は協働的な学びに親しんでいた。今回、町の魅力を英語で紹介するにあたりパワーポイント資料を作成することとし、①英語の4技能をバランスよく身に付けること、②「見える化」によって協働的な学びが深まることをねらった。授業後の討議では、「ICTを用いてパワーポイントを作ったことで伝えようとする意欲が高まったのではないか」という意見があった。英語には自信がなくても、好きな写真を選んで取り込んだりレイアウトを工夫したりすることで、資料ができていく楽しさがある。そうやってできあがったものをお互いに評価し合えたことが達成感や喜びにつながった。今回の取組で、パワーポイントを用いることの意義を感じた。

研究授業は塩江小中学校の教員全員が参観し、小中合同で討議の場を設けた。協議内容を「授業における子どもたちの姿」、「小中連携」、「教科を超えて学びあえる点」の3点とし、上記のこと以外に、「全員が楽しく授業に取り組み発表ができていたこと」「伝えたいことを主体的に考え、質問ややり取りが英語で行えていた」との感想があった。小学校で学んだことが今回の発表内容に生かされていると感じた小学校教員もいたことから、小中連携の大切さも分かった。

【課題】

- ① 発表活動は時間がかかるため、計画的に行う必要があること
- ② 生徒の学年が上がるにつれて表現できる幅も広がるので、3年間を通して着実に力がつけられるように見通しをもって取り組んでいくこと
- ③ 学年を超えて教員間の情報交換や授業計画を立てること

小学校の先生方が授業を参観する中、生徒がデジタル教科書を用いて自らの課題に取り組んでいる様子

